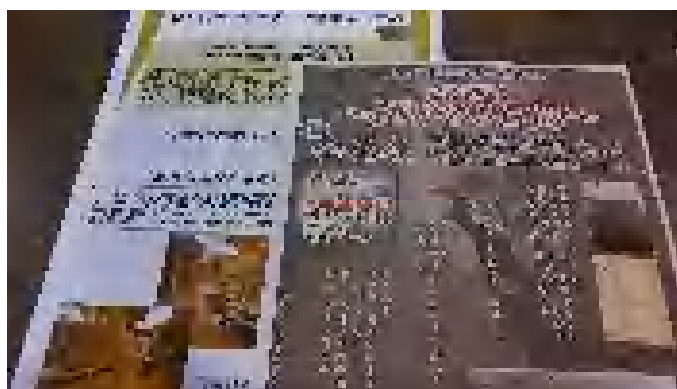


ソ連軍の「北方四島」侵攻に米軍のかかわり！

1945年（昭和20年）8月28日から9月5日までの間に、当時のソ連軍が「北方四島」に次々と上陸し占領してきたことは、多くの方がご存知のことと思います。しかし、ソ連の対日参戦に向けて、アメリカが艦船を貸与し、乗員（ソ連兵）の訓練まで行っていたことはあまり知られてはいないのではないのでしょうか。



「根室振興局では、根室内に残されている北方領土にゆかりのある建造物、遺構、文書図画、石碑、埋もれているエピソード等や北方四島側に残されている日本建築物等について、有形・無形の北方領土関連『遺産』として掘り起こし、『忘れて

はいけない物語』として後世に伝えることを目的として戦後70年である平成27年度から事業を行っています」（北海道根室振興局地域創生部北方領土対策課）

今回は、「企画展 北方四島『運命の9日間』」と題して、1945年8月28日から9月5日までの「運命の9日間」におけるソ連軍の動きを、公表されている内外の資料をもとにパネルとして二ホ口に展示するとともに、1月20日には資料解説が行われました。

その中では、Project Hula（プロジェクトフラ）、「日本との戦争におけるソビエトとアメリカの極秘協力」という資料についての説明も行われました。

北方四島『運命の9日間』以下、根室振興局によって行われた解説をもとにその概要をご紹介します（文責・鈴木一彦）。

サハリン州博物館紀要3（2011年3月）

には、「1945年8月のサハリンとクリル諸島上陸作戦に参加した軍艦と補助的船舶の注釈付きリスト」という論文が掲載されています。上陸部隊には、レンドリースによ

ってアメリカからソ連に供給された艦船も使用されています。レンドリースとは、1941年のアメリカの法律で、あくまでもアメリカの国益になるものとして、連合国に武器、弾薬、食料等を支援するものです。論文によると、「北方四島」上陸作戦に使用された艦船は17隻、そのうち10隻がアメリカからのものとなっています。

プロジェクト フラ

「ここでプロジェクトフラ」が登場します。

「プロジェクト フラ」

とは、ヤルタ会談直後の1945年2月中旬から9月にかけて、ソ連の対日参戦準備のため、アメリカのアラスカ州ゴルドベイ基地で実施された米ソ合同の極秘プロジェクトで、アメリカはソ連が対日参戦に必要としていた艦船145隻を貸与するとともに、ソ連兵1万2000人に対して最新の艦船や機器の取り扱いに関する習熟訓練を行ったというものです。

プロジェクト始動の背景として、1944年10月、英国首相チャーチルらがモスクワを訪れた際、スターリンは対日参戦の用意があることを示唆し、そのためには連合国が対日戦争に必要な軍需物資を用意しなければならぬと要求。ソ連は必要な軍需物資のリストを提示し、レンドリース協定に基づいて提供されている物資とは別枠で準備することを要求したことにあります。

上陸の際のトラックやジープなどがアメリカ製だったという元島民の証言も紹介されています。「資料解説」に参加されていた元島民の方が、「個人的見解」と前置きしたうえで、「領土が失われたことについて」アメリカにも責任がある（ことが明らかになった）。（「北方領土問題」に対して）アメリカも理解し、協力すべきであり、日本政府も対応すべきであると思う」と発言されていたことが印象に残っています。

多くの人が未だ知らない歴史の事実を、私たちは広く伝えていく必要があると考えます。また、「領土返還に向けては、揺るぎない」歴史的事実をもとに、返還運動のあり方についても検証・検討していくべきではないでしょうか。

「企画展」は2月2日まで二ホ口で開催されています。なお、「北方領土遺産発掘・継承事業」は今年度で終了とのこと。残念！